

## 北九州市立介護実習・普及センター指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年9月27日（木） 13:50～17:20
- 2 場 所 北九州市総合保健福祉センター3階 ADL室
- 3 出席者 (検討会構成員) 佐伯構成員、田上構成員、西村構成員、  
渡邊構成員  
(事務局) 保健福祉局総務部  
地域リハビリテーション推進課長、技術支援担当係長、  
担当職員1名、ほか関係職員

### 4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
  - ※ 構成員の役割、選定基準等は、予め各構成員に事前説明済。
  - ※ 応募団体の提案資料等についても、各構成員に予め配布済。
- 構成員の互選により、座長を選出
- 各応募団体により提案内容に関してプレゼンテーション及びヒアリング

#### ■ 構成員によるヒアリング

(1) 公益社団法人 福岡県作業療法協会（以下、「作業療法協会」と略す。）

(構成員) 施設運営にあたって、他の専門職団体との連携等はどのように考えているのか。

(応募団体) 福岡県には理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3つの協会があり、年に3～4回共同会議を行っている。今はまだ申込の段階であり、実際に事業者となれば、この事業のことを含め、3協会で協力し合って運用したいと考えている。

(構成員) 職員配置について、常勤職員は2名でその他は協会員のネットワークを活用した非常勤職員等の配置となっているが、それぞれの協会員には自分の仕事があり、そういった状況の中で施設運営を行っていくことができるのか。

(応募団体) 仕事をしながら協会員として関わることになるが、福祉用具の相談支援はこれまでも仕事の中で行っている。しっかり学んでいこうという姿勢が会員にはあるので、協会として心配はしていない。

(構成員) 具体的な管理体制はどのように考えているのか。管理運営状況などについて、協会による定期的なチェック等があるのか。

(応募団体) 担当理事を置き、定期的な聞き取り調査を行い、協会内で議論を

した上で、定期的に運営の見直しを行う予定である。

- (構成員) 福祉用具の選定、適合確認・再評価を行うとあるが、再調査を行った後のフォローも福岡県作業療法協会が行うのか。実際には民間の事業所が利用者と密接な関係にあったりするが、そういう事業所との連携、ケアマネジャーとの連携はどのように考えているのか。
- (応募団体) 利用者を囲むサービスの中に既にリハビリ専門職がいるのであれば、そのリハビリ専門職が福祉用具の継続的なフォローや適合ができるよう連携できたらと考えている。そのため、専門職がない事業所等に対しての直接支援が主になると考えている。
- (構成員) 事業経験がないということで、類似施設の運営者からアドバイスももらっているとのことだが、具体的にどのような助言があり、今後どのように連携していこうと考えているのか。
- (応募団体) 申請の段階のため、具体的内容は協議できていないが、お互いに情報収集・共有していくということで前向きな回答ももらっている。
- (構成員) 人口減少や高齢化の進展など、北九州市の特殊性に伴う介護の問題に対してどのようにアプローチしていくのか。
- (応募団体) 地場産業と連携、特に介護が必要になっても住み続けられる住まいづくりが重要と考えており、建築関係との連携、ロボット開発企業との連携などを常に模索していきたい。
- (構成員) 北九州市の福祉行政、介護実習・普及センターの方向性をどのように理解しているのか。
- (応募団体) 全国的にみて北九州市の福祉行政は進んでいると言われているが高齢化が進む中、財政のことも考えると厳しい状況にあるのは間違いないと感じている。そうした中で我々のような職能団体が活躍すべきと考えている。協会員それぞれが知識を高め、高齢者支援の取り組みを広めていくことが重要と考えている。

(2) 福祉用具プラザ北九州運営共同事業体（以下、「共同事業体」と略す。）

※株式会社QCCG、北九州福祉サービス株式会社、一般社団法人アジア地域社会研究所（以下、「アジア研究所」と略す。）の3社で構成。

- (構成員) 共同事業体は3社で構成されているが、施設運営において3社の役割分担や、責任の所在をどのように考えているのか。
- (応募団体) QCCGは主に管理・運営、北九州福祉サービス株式会社（以下、「北福サービス」と略す。）は研修事業、アジア研究所は医療包括ケアシステムに関する研修、現場におけるアドバイス等を行う、といった役割分担で考えている。
- (構成員) それぞれの会社の財政状態に差があるが、指定管理施設の運営において各々が独立していて財政面の管理を行うことは可能なのか。
- (応募団体) 予算の中で運営するのが大前提ではあるが、1社だけでは足りない部分があると思い、今回、共同事業体として3社で事業を行う方向とした。
- (構成員) 指定管理者になった場合、北九州市内には同業者である多くの民

間サービス事業所があるが、公平性をどのようにアピールしていくのか。

(応募団体) 情報提供を受ける段階で、協力依頼をしたいと思うことが多々あると思うが、全ての事業所に公平に対応していきたい。

(構成員) 研修について、収支計画にも関連するが、外部講師と共同事業体の内部講師の比率や講演内容をどのように考えているのか。内部講師・外部講師のどちらで実施するのか等計画はしているのか。

(応募団体) 明確な計画は作成していないが、これまで実施してきた介護研修やケアマネジャーの講師経験を共同事業体の中で内部講師として行えると考えている。講師の選定については、基本方針の中でも謳っており、しっかりと意識して実施していきたい。

(構成員) 民間サービス事業者が指定管理者となると、利益相反の問題が正直気になる。福祉用具や住宅改修等を一定の企業だけに依頼することはないと思うが、公正性をどのように担保していこうと考えているのか。

(応募団体) 情報発信の仕方を工夫することを考えている。事業所を選ぶときに、リストやカタログしかないため、各社の特色を分かりやすく書いたリストを作成し、そこから選んでもらうようにしたい。

(構成員) 利用者の満足について、民間サービス事業者としての特色を打ち出せる部分と考えるが、共同事業体の中で共有している定義などはあるのか。

(応募団体) 今の段階で共有している定義はないが、利用者の「また相談したい」という反応を満足と考えている。利用者アンケートは実施したいと考えている。

(構成員) 利用者の人権擁護、個人情報保護に関してマニュアル作成という記載があるが具体的にどのような内容になっているのか。

(応募団体) 介護保険の事業では、個人情報保護の研修は必修になっているため、個人情報保護に関しての知識はある。3社のマニュアルを参考に共同で作成していけたらと考えている。

(3) 社会福祉法人 北九州市福祉事業団 (以下、「福祉事業団」と略す。)

(構成員) 人口減少、高齢化の進展、障害の重度化など刻々と変化する本市の状況に対し、今後どのような取り組みが必要と考えているのか、また、どのようなところに力を入れていきたいのか。

(応募団体) ニーズの高まりにより利用者数も伸びているが、これまでの取り組みだけでは限界がある。利用者を支援している専門職や介護職員に対して、福祉用具の使い方や介護方法について直接的な支援をし、人材を育てていくことが今後の課題と意識している。

(構成員) 法人内には経験豊かな多くの職員がいる。人事異動などによる活性化も必要と思うが、そうした点はどのように考えているのか。

(応募団体) 個々の専門職がそれぞれの得意とする分野の知識や技術を高め、組織の中でより専門性を特化させていくほうが、ローテーションす

るよりも市民から信頼感を得やすいと感じている。専門性を深化させ地域に発信していくことが大切だと思っている。

(構成員) 社会福祉法人は地域貢献が使命だと思うが、法人としての地域貢献に資する取り組み、介護予防への関与状況について聞きたい。

(応募団体) 百万人の介護予防事業、地域リハビリテーション活動支援事業などを市から受託し、地域包括ケアシステムの中の介護予防についても取り組んできた。地域貢献は法人の中期計画においても大きな柱に掲げており、総合療育センターの専門職によるアウトリーチや、施設において地域の方を対象とした講座を開催するなど、法人が持つ専門性を地域に還元する取り組みを行っている。

(構成員) 介護実習・普及センターが全国的にも少なくなっている状況の中、若い人たちと一緒に「安心してこの北九州市で暮らしませんか？」などの事業等を考えられているのか。

(応募団体) 今回の提案にもノーリフトポリシーについて掲げているが、北九州市で福祉用具を活用すれば安心、安全に介護を受けて暮らせる「介護先進都市」として定着できるよう発信していきたい。

(構成員) 地域包括ケアシステム構築が進められる中、医療と介護の連携はまだまだ不十分と言われている。そうした中、誤嚥性肺炎の患者が増えており口腔ケアや食事の形態、食事介助の方法などの問題に対するアプローチも期待されていると思うが、医療と介護の連携に踏み込んだ取り組みや独自のネットワークがあるのか。

(応募団体) 誤嚥性肺炎については姿勢管理の問題も非常に大事であり、適切なシーティングやポジショニングには福祉用具の活用が欠かせないと思う。また、福祉用具の相談の中で口腔ケアや食事形態をもっと考えたほうがよいと思った場合には、法人内のSTや栄養士に助言を求めたり、地域の医療機関と連携するなど利用者を通して医療と介護の連携に関与することは可能と考える。

(構成員) 専門相談支援の中でアウトリーチのニーズが高まってくるのではと思われるが、訪問回数目標値はこれまでの実績値から見込んでいるのか。

(応募団体) 現状の1日2件程度の訪問実施で算定している。しかし、限られたマンパワーの中でニーズに対応するには限界があると認識しており、今後は直接支援だけでなく、利用者に関わっている支援者への技術支援での対応も並行して考えている。

○ 各構成員は、提案書の内容及び各応募団体による提案内容についてのプレゼンテーションとヒアリングを踏まえて、意見交換を実施

(1) 公益社団法人 福岡県作業療法協会

(構成員) 作業療法士の団体であることから、専門的な知識や能力は高いレベルにあると思う。

(構成員) 福祉用具の開発や普及などの面で優れていると思うが、経営主体としての人的・財政的な規模が十分ではないのではないか。

- (構成員) 職能団体として、高い理念・専門性を有しているが、財政基盤が小さく、施設運営を行う上で、安定性や持続可能性に不安があるのではないか。
- (構成員) 類似の事業の実施経験がなく、事業実施のための必要な情報収集など、準備はこれからではないかと感じる。
- (構成員) 利用者満足度の数値目標の設定が60%からのスタートで、目標設定がやや低いのではないかと感じた。
- (構成員) 提案内容について、管理運営体制に不明確な部分があり、安全対策、危機管理体制、個人情報保護などの取組みや対策等が具体的に示されていない。
- (構成員) 協会員だけで事業運営をするのではなく、他の職能団体等との連携などについても具体的な提案が欲しかった。
- (構成員) 作業療法協会が指定管理者として機能してくれると市民は心強いだらうと感じた。専門知識を有する協会には、第一に市民をイメージしてくれる団体になって欲しい。

## (2) 福祉用具プラザ北九州運営共同事業体

- (構成員) 民間サービス事業者だからみえることがある。利用者本位のサービス提供等期待できるのではないか。
- (構成員) 3社による共同事業体を組んでの提案であり、介護実習・普及センターの運営をさらに良くしたいという意欲を感じた。
- (構成員) 高い理念と基本方針が明確に示されており、構成団体の人的基盤や財政基盤についても一定の評価ができる。
- (構成員) 共同事業体として意欲的な提案と思うが、提案内容に対する具体的な取組みや成果、目標等について示して欲しかった。
- (構成員) 介護関係の研修や福祉用具販売等の類似の事業の実績はある。
- (構成員) 共同事業体としての責任分担や役割分担、平等利用・安全対策等の管理運営体制などについて、さらに具体的な提案が示されれば良かったと思う。
- (構成員) 共同事業体の団体の特性、事業内容等から、利益相反は気になる。
- (構成員) 民間サービス事業者等の共同事業体であり、他の民間サービス事業者との公平性をどのように担保していくのかがやはり重要である。今後の提案に期待したい。

## (3) 社会福祉法人 北九州市福祉事業団

- (構成員) 法人は、専門的知識や技術を持った多くの人材を有している。財政基盤も健全で長期的にみても安定している。
- (構成員) 長年にわたり、対象施設を管理運営し一定の成果を上げてきた実績があり、市内で多くの福祉施設等の運営実績もある。そのため、医療・介護連携も含めた地域包括ケアシステム推進においても役割を担うことが期待できるのではないか。
- (構成員) 平等利用等の取組み、個人情報保護や安全対策等のマニュアルが適

切に整備され、管理運営体制もしっかりしており評価できる。

(構成員) 総合的に高い評価ができるが、今後さらなる活性化等も必要ではないか。

(構成員) 施設の設置目的にそった実現可能性の高い取り組みが数値目標も含め具体的に提案されており評価できる。一方で、既存事業に終始するだけでなく、今後さらに様々な市民ニーズ等に目を向け、新たな取り組みにも挑戦して欲しい。

(構成員) これまでの実績で、利用者満足度は高い結果であるが、市民の生活支援への成果等もより意識し、さらに高いレベルの利用者満足の実現に努めて欲しい。

#### (4) その他、構成員からの意見

(構成員) 今回、3団体からの提案があっている。介護実習・普及センターの機能や役割などを含め、運営したい施設として認知されるようになったのではないか。新たな2団体からの提案は、もっと良いものを実践できるのではないかという意識や意欲の表れだったようにも感じる。複数の団体から応募があったことは、選定された団体にとっても良いことではないかと思う。

(構成員) 指定管理者の応募は、市の募集要項等に基づき行われているが、応募の競争性等を高めるために、市はさらにより良い提案をしていただくための環境づくりに努力していただきたい。

#### ○ 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

・公益社団法人福岡県作業療法協会は、専門的な知識・能力を有しており、市民にとっても心強い団体として期待できる。一方で、財政基盤が小さく、施設運営を行う上で、安定性や持続可能性等に不安があること、職員配置において常勤職員2名以外は非常勤職員等の配置になっていることなど、施設の管理運営体制や責任体制などが不明確な部分もあったこと等から、高い評価には結びつかなかった。施設運営において、福岡県作業療法協会のネットワークを活かし、他の職能・専門職団体等との連携などについても具体的な提案が欲しかった。

・福祉用具プラザ北九州運営共同事業体は、高い理念と基本方針が明確に示されており、構成団体の財政基盤や実績にも一定の評価ができる。また、民間サービス事業者等の立場から、利用者本位の質の高いサービス提供に期待感はあるが、一方で、共同事業体としての責任分担や役割分担に不明確な部分があったこと、管理運営体制などの提案の具体性が不足していたこと等もあり、高い評価には結びつかなかった。介護実習・普及センターの運営をさらに良いものにしていくという意欲があり、今後の提案に期待したい。

・社会福祉法人北九州市福祉事業団は、長年にわたり介護実習・普及センターの管理運営を行い一定の成果を上げてきた実績がある。提案は、これまでの実践の成果、最近の介護ニーズの動向等を踏まえたものであり、各項目において基本的な考え方、取り組み内容等が明確であり、総合的に高い評価ができる。

・検討会としては、数値目標等も含め、具体的な提案を行い、各構成員の評価・検討会の評価・合計得点の高くなっている、社会福祉法人北九州市福祉事業団が指定管理者として相応しいと判断する。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。